TYPE OF INDUSTRY

素材・医療・ヘルスケア

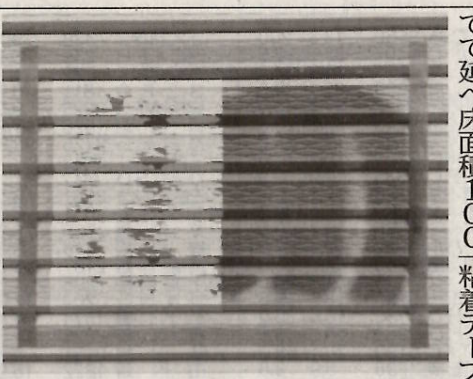
五合、愛知・小牧に新工場

防汚機能塗料シート増産

【名古屋】五合（愛知県春日井市、小川宏一社長、0568・35・2001）は、愛知県小牧市に防汚機能を持つ塗料シートの工場を新設し、2020年2月に稼働する。投資額は3億―4億円。19年3月に本社工場で生産を始めた無機塗料「ゼロ・クリア」のシートタイプが工場や飲食店など向けに需要が見込めるため、増産体制を整える。

新工場は敷地面積2000平方㍍、2階建てで延べ床面積1000平方㍍。塗料を金属箔フィルムに塗布し、粘着テープと貼り合わせてシートを製造する。当面は幅245㍉㍍のシートを製造するが、将来は同1600㍉㍍に対応する製造設備も導入し、さらに生産増強する方針。

フィルムに塗布するのは、水を流すだけで油などの汚れが落ちる機能と高硬度特性を持つ塗料。従来は塗料の塗布後に焼成するため対象物を搬送する必要があり、既存設備への対応が難しかった。材質も耐熱性のある金属やセラミックス、ガラスなどに限られていた。シートタイプは廃水処理の負担軽減によるコスト削減につながることなどが評価され、自動車部品メーカーなどに採用されたほか、塗料メーカーなどからの引き合いがある。価格はシートを貼る場所に適応した粘着テープの仕様によって異なり、1平方㍍当たり5000円（消費税抜き）程度。シートのみで20年度に5億―6億円の売上高を見込む。



▲防汚機能を持つ塗料「ゼロ・クリア」のシートタイプを貼った左側は油汚れが水で流れる

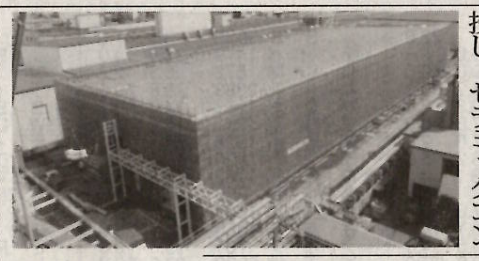
東洋紡、加工設備増設

セラミックコンデンサー向け　離型フィルム需要拡大

東洋紡は約30億円を投じ、セラミックコンデンサー用離型フィルムの加工設備を増設する。同コンデンサーの製造工程に不可欠な離型フィルムで、自動車の電動化などで拡大する需要に対応する。2021年春をめどに稼働し、23年度までに同フィルムの売上高で18年度比倍増を目指す。

フィルム原反を生産する敦賀事業所（福井県敦賀市）で工場棟を建設しており、原反に離型層をコーティングする加工設備を入れる予定。同工場棟は7月に加工設備の1号機が稼働予定だが、今後さらに離型フィルムの需要拡大が見込めることから、2号機の投資を決めた。離型フィルム市場は17年度に約7000億円だったのが、23年度には倍増すると想定している。

東洋紡はハイエンド品の製造工程で使われる離型フィルムを、原反から加工まで製造できる唯一のメーカー。同フィルムの世界シェアは現在約25%あり、21年度に30%を目指している。



▲セラミックコンデンサー用離型フィルム加工設備を新規導入する工場棟（敦賀事業所）

遺伝子受託解析施設　開設

アクトメッド　7月めど本格稼働

キヤノンメディカルシステムズ（栃木県大田原市、滝口登志夫社長、0287・26・6211）の子会社であるアクトメッド（東京都中央区）は、遺伝子受託解析施設「湘南アイパークラボラトリー」を神奈川県藤沢市の湘南ヘルスイノベーションパーク内に開設した。がん関連の遺伝子変異を解析し最適な治療薬を調べるクリニカルシーケンス検査サービスを提供する施設で、7月に本格稼働を予定する。

同施設は検体を国内で処理するため委託先からの要求に迅速に対応でき、サービスを固有の変析結果を情報を含ベースにトも提

▲アクトメッドの遺伝子受託解析施設「湘南アイパークラボラトリー」

普通鋼鋼材受注10%

2月　8カ月連続で前年

日本鉄鋼連盟が発表した2月の普通鋼鋼材受注実績は、内外需の合計で491万484トンと前年同月比10・7%減り、8カ月連続で前年同月を下回った。8カ月連続の前年割れは、2008年8月から09年9月にかけて14カ月連続で前年同月を下回った時以来の長さ。鉄連では一部鉄鋼メーカーの操業トラブルによる生産量の落ち込みから、輸出向け鋼材を中心に引き受けを手控える動きが続いたと推測。需要自体は国内外とも堅調だった

と分析し

普通鋼全体のう同2・8万913けは同2542万5もに落ち向けのうは同3・

メチオニン船舶

住化など3社　国の

住友化学は住友倉庫と四国開発フェリー（愛媛県西条市）との3社共同る飼料添ンの国内通省の「画」に認ラックに比べ二O2）排削減できされた。り、税制の支援を

3社は愛媛工場で増産すについて

る神戸港部分を

る。トラ94%減ら境負荷のドライバを約91%

社名を、5月に「コベルコ・インダストリアル・マシナリー・インディア」に変更する。LTKMは自動車や建設機械のタイヤを製造する際に使うゴム混練機やゴム2軸押し出し機が主力。2010年の設立以来、インドでの販路確立やブランド浸透を狙い、神鋼の出資比率を49%にとどめてL&Tと共同経営を進めてきた。完全子会社化を機に、東南アジア諸国連合（ASEAN）や欧州への拡販を加速させる方針だ。

神鋼、印社を完全子会社化

タイヤ・ゴム製造装置　東南ア・欧へ拡販加速

神戸製鋼所は、自動車向けなどに使うタイヤ・ゴム製造装置を生産するインドの合弁会社、L&Tコベルコ・マシナリー（LTKM、カーンチプラム市）を完全子会社化した。合弁パートナーで、同国の建設エンジニアリング業界首位のラーセン・アンド・トゥブロ（L&T）が保有していた株式51%を約7億円で買い取り、全株を取得した。インド市場の急成長をにらみ、完全子会社化で営業力とコスト競争力の強化、意思決定の迅速化を図る。

神鋼のシンガポール法人と神鋼本体の2社で全株を取得した。これを受けてLTKMの

挑戦する企業

「産業ガスメジャー」へ

大陽日酸 ⑦

凍結技術 ルーツ

大陽日酸は再生医療分野における培養細胞の凍結保存容器メーカーでもある。「産業ガスメーカー」と「再生医療」―。一見結びつかないが、液体窒素による凍結技術が背景にある。

2009年には生体試料の取り違えを防ぐための全自動凍結保存システム「クライオライブラリー」を、15年には液体窒素の蒸発量を抑えるなど高度化した「クライオライブラリー　アドバンス」を発売した。執行役員メディカル事業本部長の田中常雄は「再生医療が本格的に実用化すれば、市場が広がる」と、投資を進める考えだ。

メディカル事業で柱となるのは「酸素」。在宅医療のサポートや、人工呼吸器の製造販売をしている。先端分野では、がんの診断に用いる陽電子放射断層撮影（PET）診断薬の原料である「酸素18安定同位体標識水」を製造している。質量数18の酸素原子の水を製造するプラントを段階的に増設し、現在の生産能力は年間で計600㌔㍑。30カ国以上に供給しているトップメーカーだ。

この副生ガスを利用し、国内で初めて「酸素17」の製造にも成功した。当面は生産能力が年間30㌔㍑と限られていることもあり、研究用試薬としての利用を見込む。将来はMRI（磁気共鳴断層撮影装置）用造影剤の原料として、脳血流の検査や、認知症の解明に役立てたい考えだ。

副生ガス利用、先端医療支援

脳血流・認知症応用も視野

医者に会う

大陽日酸は21年3月期までの中期経営計画で、M&Aによるメディカル事業の拡大を掲げている。18年には安定同位体標識アミノ酸を製造販売するSAILテクノロジーズ（東京都多摩市）に続き、人工呼吸器などの販売会社のアイ・エム・アイ（IMI、埼玉県越谷市）を買収。「『次に取り組むべきテーマ』を知るにはドクター（医

▲生体自動シス者）が一中）IMルー

だった。

バイオやメディ事業領域を拡大で、成長が見込でもある。「ガわれば市場は小く関係ないことが、将来に向け広げていく」。う意気込む。（